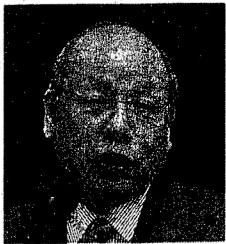


第26回党大会での大会決議案、中央委員会報告にもとづく討論の発言を順次紹介します。

# 第26回党大会の討論

## ① 大阪で80万票に挑戦し 政党間の力関係変える

大阪 山口 勝利代議員



歴史的な党大会で、光栄ある最初の発言となりました。いよいよ新しい特徴を持つ「自共対決」時代の本格的

議席とともに辰巳孝太郎さんを先頭に大阪選挙区議席の奪還を果たしました。比例代表での躍進の波と候補者の魅力が相乗した結果だと思えます。

「戦争する国づくりに、暗黒日本への道」を拒否する広大な共同を広げる先頭に立ちます。

「維新の会」は昨年の結党大会で安倍自公政権の補完勢力の姿をあらわにし、「慰安婦」問題での暴言で窮地に、さらに「思想調査」問題での断罪、府

民・市民のたたかいに追い詰められ、参院選で大きく後退しました。

9月の堺市長選や11月の岸和田市長選では大差で勝利し、大阪市議会では、地下鉄民営化案の3度の継続審議など、橋下市長肝いり議案の否決が続きました。府議会では「維新の会」は単独過半数を割り込みました。

秋に予定される大阪都構想の「住民投票」や来春のいっせいで地方選、知事・市長のダブル選挙で、いよいよ都

構想と維新政治の終結への審判を下す「オール大阪」のたたかいに挑んでいきます。

国政選挙では大阪で「80万票、得票率17%以上」に正面から挑戦し、自らの力で政党間の力関係を変え、数十の国会議員の実現をめざし、「自共対決」をたたかいぬく足場を築く決意です。

党勢の倍加と世代継承に全力あげてとりくむ――二つの目標の実現は、大阪と日本の新しい政治を切り開くため、必ず成しとげなければなりません。12月は161人の入党者のうち、職場で33人、20代30代が38人です。1月末までの「特別期間」目標をやりぬき、来春の地方選挙勝利へ2月から連続的・持続的な党建設に挑戦していきます。

②

## 堺市長選で維新に勝利 党員拡大が力になった

大阪 阪上 良一代議員



昨年9月の堺市長選で現市長を自主的に支援し、維新候補を破り、「大阪都構想」に力をつけて勝利を勝ち取りました。(拍

手)

堺には、「ものの始まり、何でも堺」という市民に親しまれている歌があり、自負があります。府下で初めて市長選で維新を打ち破り、維新の崩壊の始まりをつくりました。11月の岸和田市長選で維新は敗北し、12月に府議会では東北高速鉄道の米国ファンドへの売却

案を否決。維新は造反で過半数割れとなり、府民の良識の声と運動の大きさを示しました。

堺市長選では、共産党も加わる「住みよい堺市をつくる会」の活動だけでなく、橋下・維新の「大阪都構想」が出されて以来、「大阪都構想から堺の自由と自治を守る」運動を開始。「市民の会」の活動に七つの区の党組織が協力し、継続的なシンポジウムや集いを開き、前市長、元自民党市議など広々さまざまな方々が結集し、「堺はひとつ」という

合言葉が生まれ、反共

分断攻撃をはねのける共同のたたかいが発展しました。

決議案の第3章で党が「強大な組織力をもって発展することは、新しい政治への国民的共同と統一戦線を発展させるための決定的な条件となる」と強調していることが大事だと思えます。堺では、前

党大会後、党員拡大によって切り開かれる展望を語り合い、「明るく、楽しく、「ミニ集い」を重視して、4年間で5200人を党に迎えました。3年前のいっせいで地方選では維新の突風が吹き荒れる中、府議会の議席を失

ったものの市議会では六つの区で議席を守り現有8議席を守りました。そのことが今、維新とのたたかいの大きな力になっています。

「大運動」1月目標達成へ奮闘中です。党勢倍加、世代継承を大きく前進させるために「本気で温かい党をつくる気持ちがあれば、いろんな壁も打ち破れる」と実践してまいります。来春のいっせいで地方選で半数以上の区が定数減となる市議選での議席増と府議席奪還をめざし全力をあげます。

# 「教育こわし」許さない 攻撃に屈しない共同へ

大阪 久家 英和代議員



の会による教育破壊、大阪では「教育こわし」と言っており、これが、これを許さないたたかいと、教職員分野における党建設について発言します。

教職員の福利厚生生活や大阪労連の労働相談活動をしながら、党活動をしています。党歴は、まだ44年です(笑い)。橋下・維新

安倍・教育再生路線と軌を一にする橋下・教育こわしとたたかって6年になります。「大阪の教育はどうなっているのか」、全国

から心配の声をいただいています。しかし、教育基本条例や授業評価など、そう簡単には学校現場には根付かず、破たんが広がっています。それは、攻撃に屈しない「反維新」の共同が広がっているからです。

大会決議案は、「一点共闘」が大きな広がりをもって発展していることを「未来ある画期的な動き」と述べていますが、まさにこうした動きが大阪における教育分野でも広がっています。

維新の会による教育こわしは、教育のあり

方を根本から破壊するものであるため、立場の違いを超えて、改めて「教育で何を大切にするのか」、根本から問い始めています。

私たちは「反維新」、「反安倍教育再生」を掲げ、子どもの成長と教育を最も大切にする教育関係者との共同、そして府民・国民的な共同をいっそう広げていく決意です。

党勢の倍加と世代的継承は、教職員組織にとってもさし迫った課題です。職場にはさまざまな困難があります。が、授業づくりや組合活動、原水爆禁止世界

大会参加などを土台に加入を呼び掛け、相手の疑問に「いいねい」に答え、励ますことで加入してもらっています。

教訓としては、意識的、計画的に足を踏み出していくためには、大小の「集い」が重要になってくることです。「集い」をきっかけにして、その場や、その後の働きかけで入党しています。

大量退職の下、困難を前向きに克服し、新たな展望を切り開いていくため、党員拡大100人の達成に意気高く挑む決意です。

# 国民の声を届ける誇り 党の論戦力の源泉実感

大阪 辰巳 孝太郎代議員



員として戻ってきました。(拍手)

全国の党員、後援会員の総力で参院選の躍進を勝ちとったことに感謝し、喜び合いたいと思います。臨時国会で感じたことを共有しながら討論に参加します。

2003年のいっせいで地方選に初めて立候補した後に開かれた第23回党大会以降、2回目の参加です。参院議

特定秘密保護法をめぐって、特別委員会終

了後、自民党、民主党による常任委員会委員長の解任決議台戦となりました。自民党は別々の決議案の討論で同じ原稿を読み上げ、民主党は決議案とはまったく関係ない内容の演説をおこないました。

共産党はほとんどの決議案で討論に立ち、自民党席から「共産党、最後をバシっとしめてくれ(笑い)との声が出るほどでした。本会議の討論では、共産党の独壇場でした。(拍手)

国会論戦を通じ、国

民の真剣な声を国会に届ける党の一員だと心から誇りに思えましました。

国土交通委員会と厚生労働委員会の質疑では、労働組合で聞き取りし、実態にもついた生の声を国会に届けました。草の根を力に持つ党の論戦力の源泉だと感じました。

現実の政治も動かしませんでした。ブラック企業規制法案の提出にあわせて、厚労省が全国で電話窓口相談を設け、実態調査に乗り出しました。20、30、40人と国会議員を増やせば、

ブラック企業を根絶し、すべての国民が人間らしく働ける社会をつくれるのではないのでしょうか。

大会決議案にある「北東アジア平和協力構想」を掲げられるのは、侵略戦争に反対し、中国、韓国はじめ、どこの国とも対等の立場でつきあえる共産党だからこそです。

新しい時代を切り開く若手議員として、きたるべきいっせいで地方選や国政選挙でのさらなる飛躍のために全力をつくすことを決意し、発言とします。